

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4282929号
(P4282929)

(45) 発行日 平成21年6月24日 (2009. 6. 24)

(24) 登録日 平成21年3月27日 (2009. 3. 27)

(51) Int. Cl.

F 1

B 6 5 D 77/06 (2006. 01)

B 6 5 D 77/06 D

B 6 5 D 25/10 (2006. 01)

B 6 5 D 25/10

B 6 5 D 47/06 (2006. 01)

B 6 5 D 47/06 F

B 6 5 D 47/06 G

請求項の数 8 (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2001-399753 (P2001-399753)
 (22) 出願日 平成13年12月28日 (2001. 12. 28)
 (65) 公開番号 特開2003-192030 (P2003-192030A)
 (43) 公開日 平成15年7月9日 (2003. 7. 9)
 審査請求日 平成16年11月30日 (2004. 11. 30)
 審判番号 不服2007-17496 (P2007-17496/J1)
 審判請求日 平成19年5月25日 (2007. 5. 25)

(73) 特許権者 000006909
 株式会社吉野工業所
 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号
 (74) 代理人 100064908
 弁理士 志賀 正武
 (74) 代理人 100094400
 弁理士 鈴木 三義
 (74) 代理人 100106909
 弁理士 棚井 澄雄
 (74) 代理人 100102059
 弁理士 村迫 俊一
 (72) 発明者 飯塚 茂雄
 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会
 社 吉野工業所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 液状物を収容した軟質容器を収納する外容器体

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

液状体あるいは粉体等の流動性を有する内容物が収容された袋状の軟質容器を、内部に収納して安全に保管すると共に注出可能に保持する外容器であって、前記軟質容器を自立状に収納するのに適した箱形状に形成されて底部に底蓋が開閉可能に設けられた容器本体と、該容器本体の上端開口部に着脱可能に嵌合された中蓋と、該中蓋の上から容器本体に嵌合される外蓋とから構成され、前記中蓋の天板面のスリットより前記軟質容器の上端部を開封可能に突出せしめて挾持すると共に、内容物を注出可能に保持するように形成してなることを特徴とする液体等の内容物を収容した軟質容器を収納する外容器。

【請求項 2】

液状体あるいは粉体等の流動性を有する内容物が収容された袋状の軟質容器を、内部に収納して安全に保管すると共に注出可能に保持する外容器であって、前記軟質容器を自立状に収納するのに適した箱形状に形成されて底部に底蓋が開閉可能に設けられた容器本体と、該容器本体の上部開口端部に蓋体を着脱可能に形成して、前記開口端部に嵌合された中蓋と、該中蓋の上から容器本体に嵌合される外蓋とから構成され、前記中蓋の天板面のスリットより前記軟質容器の上端部を開封可能に突出せしめて挾持して内容物を注出可能に保持すると共に、前記軟質容器の上端開口部の下方部分を密閉可能に形成してなることを特徴とする液体等の内容物を収容した軟質容器を収納する外容器。

【請求項 3】

前記容器本体は、上端開口部に蓋体を着脱可能に嵌合せしめて係止する嵌合係止部が設

10

20

けられると共に、下端底壁部にヒンジを介して開閉可能に底蓋が設けられてなることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載する液体等の内容物を収容した軟質容器を収納する外容器。

【請求項 4】

前記容器本体は、上端開口部に蓋体を着脱可能に嵌合せしめて係止する嵌合係止部が設けられると共に、下端底壁部に着脱可能に底蓋が設けられてなることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載する液体等の内容物を収容した軟質容器を収納する外容器。

【請求項 5】

前記中蓋は、前記軟質容器の開封可能な上端部を前記中蓋の天板面より突出せしめて嵌合して挟持する嵌合スリットと内容物を注出可能な開口部が蓋の天板部に形成されてなることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載する液体等の内容物を収容した軟質容器を収納する外容器。

10

【請求項 6】

前記中蓋は、天板部の中央部分に内容物を注出可能な開口部が形成されると共に、該開口部の両端部分に前記軟質容器の開封可能な上端部を嵌合して挟持する嵌合スリットが形成されてなることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載する液体等の内容物を収容した軟質容器を収納する外容器。

【請求項 7】

前記スリットは、天板部に設けた開口部の片方の縁部に直線状に形成されたスリットと他方の縁部に曲線状に形成されたスリットとを向かい合わせに設けた形状のスリットに形成されてなることを特徴とする請求項 6 に記載する液体等の内容物を収容した軟質容器を収納する外容器。

20

【請求項 8】

前記スリットは、天板部に設けた開口部の片方の縁部に直線状に形成されたスリットと他方の縁部に曲線状に形成されたスリットとを向かい合わせに設けた形状のスリットと、前記直線状スリットと曲線状スリットとを逆に設けて向かい合わせた形状のスリットとが、平行状の対をなしたスリットに形成されてなることを特徴とする請求項 6 に記載する液体等の内容物を収容した軟質容器を収納する外容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

30

【発明の属する技術分野】

本願の発明は、軟質の熱可塑性合成樹脂等からなる袋状その他の可撓性容器、あるいは、合成樹脂フィルムやアルミニウム箔等のラミネート材からなる袋状その他の軟質容器に、ジュースやソースその他の液状物、または、シャンプーや化粧品等の各種液状物、あるいは、カレーやシチュー等のレトルト食品等が充填されてなるパウチその他の軟質容器を、合成樹脂や金属その他からなる硬質容器内に収納して保管するための外容器に係わるもので、特に、前記した液状の内容物が充填されている軟質容器を開封して使用した後、使いかけの内容物が残存する軟質容器を安全に保管できるようにした外容器に関するものである。

【0002】

40

【従来の技術】

従来からジュースや調味料その他の各種の液状の流動物は、ガラス製の容器に収容されたものが一般的であったが、これらの容器に充填されたものは重くて、また、破損し易いこともあって、近年は、金属製や合成樹脂製の各種容器に充填されたものが多用されるようになった。

アルミ等の金属製容器やPET樹脂等の合成樹脂製容器等は、充填する前の空の容器を移送するのに大きなスペースを取り、また、容器の製造コストも高くつくことから、最近では、収容する内容物によっては、合成樹脂製の袋状をした容器、または、合成樹脂フィルムやアルミ箔等で内張りされた各種の軟質容器、あるいは、紙製容器に軟質の袋状容器を内蔵したパウチ容器等が用いられるようになってきている。

50

【0003】

上記のような軟質容器の中で、袋状をした軟質の容器としては、実開昭62-134826号や実開昭63-34070号公報等に記載されるようなものが、また、紙製容器内に軟質の袋状容器を内蔵したパウチ容器としては、実公昭44-20871号や実開昭51-61518号公報等に記載されるようなものが、一般的に知られている。

そして、上記の実開昭62-134826号や実開昭63-34070号公報等に記載されるような袋状をした容器は、安定性がなくて破損し易くて、且つ、自立性に欠けて見栄えも悪く、内容物を安定した状態で注出して使用することが難しくて、また、実公昭44-20871号や実開昭51-61518号公報等に記載されるようなパウチ状の紙容器等は、破損し易い点はやや改良されているが、容器が変形したり、見栄えがあまり良くない点があり、もう少し改善する余地がある。

10

【0004】

更に、上記のような軟質容器にあっては、開封した容器内にまだ多くの内容物が残されている場合、軟質容器は腰が弱くて倒れ易いことから、何らかの物体に立てかけておいたりするが、途中で倒れて内容物が流出したりして扱い難いばかりか、不経済でもあり、その処理に困ることは日常よく経験することである。

そのような中で、上記したような問題点を解決するために、これらの軟質容器の外側に、合成樹脂やその他の材料で形成された剛性を備えた硬質の容器を被着せしめて、内部の軟質容器を保護すると同時に、その外観の見栄えをよくするための方法等が、従来から色々と考えられている。

20

そのような一つの例として、実開平6-49353号公報に記載されているように、液状の内容物を収容した軟質の容器の外側に、別体の硬質の外容器を被着せしめて、内部の軟質容器の保護と自立性とを有するようにした保護容器が、従来から知られている。

【0005】

上記公報に記載される保護容器は、前記したような軟質材で成形された容器本体に各種の液状の内容物が収容されると共に、その上端部に注出口が設けられた軟質の液体容器60に、図6に示すように、硬質の材料で成形された外容器65を被着せしめることにより、該外容器65の内に前記軟質容器60を収納せしめて一体に固定した液体容器を形成したものである。

そして、前記軟質容器60の注出口に専用の液体注出装置67を装着せしめて、軟質容器60の内溶液を注出可能とすることにより、図に示すような液体注出容器68が構成される。

30

【0006】

前記した軟質の液体容器60に被着せしめる硬質の外容器65は、図6に示されるように、軟質の内部容器の胴部を収容する下半部分65bと、軟質の液体容器からなる内部容器に対して上部から被せる上半部分65aとに二分割した構造に形成されると共に、上半部分65aには、液体注出装置67を突出せしめて装着する開口部65cが形成されており、下半部分に上半部分を嵌合せしめて接合することにより軟質容器を収納するのに適した箱状の外容器が形成される。

40

【0007】

このようにして形成された外容器に専用の注出装置を設けて構成された液体注出容器68は、内部の軟質容器60は外容器65により保護されているので破損するようなこともなくて、また、前記注出容器自体も安定した自立性を有する形状をしているので、使い勝手も良くて非常に便利であり、更に、外部容器65は、内部容器の形状と密接に関係した形状に成形する必要もないので、ある程度はデザインその他で好みの形状にできる自由度があり、模様付け等もすることができることから、外容器を外見の見栄えの良いものにすることができる。

【0008】

しかし、上記のような液体注出容器68は構成するには、硬質の外容器の下半部分65bに軟質の液体容器60を収容した後で、該軟質容器の上端開口部に設けられた吐出口に螺

50

着された蓋部が、上半部分 65a の開口部 65c から突出するようにして、下半部分に上半部分を嵌合せしめて一体となしてから、前記吐出口の蓋部を取り除いて専用の液体注出装置 67 を装着せしめることにより、箱状に形成された硬質の外容器内に軟質の液体容器が固定された液体注出容器 68 を構成しなければならなかった。

【0009】

また、このような外容器は、液体注出装置を装着して注出可能な内容物を収容した軟質容器には適しているが、注出装置では注出できないようなレトルト食品や粉体等からなる内容物を収容した軟質容器、あるいは、液体注出装置が装着不可能な構造をした袋状の軟質容器には適用することができないし、また、上記のような構造した外容器に軟質の液体容器を収容して、液体注出装置を取り付けて注出可能に構成するには、組み立てるのにやや手間が掛かり過ぎて面倒な点があり、更に、上下の二つに分割された容器を嵌合可能な構造にして外容器に成形するには、成形金型その他の面から製造コストを低減するのが難しいなどの問題点があった。

10

【0010】

特に、従来から各種調味料やレトルト食品、その他を内部に収容した軟質容器は、使用に際して、一度該容器の一端部を切除して開封すると、容器に自立性がなくて、また、再密封することもできず、その保管も困難であることから、一度開封した容器はその内容物を使い切ってしまうか、使い残した内容物は別の容器に移して保管するしかなくて、更には、その使用に際しても内容物が手に付着したり、こぼれたりすることが、しばしばあった。

20

そこで、注出装置を用いることができないような内容物を収容した袋状の軟質容器を、別体に成形された外容器の内部に収納しておいて、簡単に内容物を注出して使用することができるようにした外容器の出現が望まれている。

【0011】

【発明が解決しようとする課題】

本願の発明は、袋状やパウチ状に成形された軟質の容器に各種の液状物あるいは粉粒物が収容されてなる軟質容器を、内部に簡単に収納することができて、且つ、注出可能に保持して安全に保管することができるようにした外容器を形成すると共に、該外容器の外観上の見栄えを良くした外容器体を提供する。

そして、前記した外容器を、内部に収納した軟質の内容容器を自立状に安定させた状態で保持することができるようにすると共に、開封された軟質容器であっても注出可能な状態で保持して安全に保管できるような構造に形成して、軟質容器内の内容物が不用意に流出するようなことがなくすと共に、外容器の胴壁部を手にて把持して傾けることにより内部に保持した軟質容器から内容物を容易に注出できるような構造にした外容器を形成する。

30

また、上記のように形成された外容器は、手間を掛けずに軟質の内容容器を収納して簡単に組み立てができるような構造にして、安価に製造することができるようにする。

【0012】

【課題を解決するための手段】

本願発明は、上記したような課題を解決するために、外容器を形成する容器本体を、熱可塑性合成樹脂のブロー成形や射出成形等により内部に軟質の容器を収納するのに適した形の箱形状にした中空状の容器本体に成形して、また、前記容器本体の開口部に嵌合して軟質容器を注出可能に保持すると共に、安全に保管できる中蓋を、熱可塑性合成樹脂の射出成形等により前記容器本体の開口部に着脱可能に成形すると共に、該中蓋の天板部に前記軟質の容器の上端部を挿通して保持するスリット部と内容物を注出可能にする開口部とを形成する。

40

そして、上記のように形成した容器本体の開口部に、前記袋状やパウチ状に形成された軟質の容器の上端部を保持する前記中蓋を着脱可能に嵌着せしめて、前記軟質容器を安全に保管すると同時に内容物を注出可能に保持して、該中蓋の上から計量カップを兼ねた外蓋を被着せしめて、内容物を収容した軟質容器を保管、密閉可能にした剛性を備えた硬質の外容器を形成する。

50

【 0 0 1 3 】

【 発明の実施の形態 】

液状物あるいは粉粒物を収容してなる袋状の軟質容器を、内部に収納して、安全に保管することができて、また、軟質容器の内容物を注出できるように自立状態にして保持することができる剛性を備えた外容器を形成するために、まず、熱可塑性合成樹脂を射出成形またはブロー成形して前記軟質容器を内部に収納するのに適した形の箱形状をした中空の容器に成形し、剛性を有する硬質の外容器となる容器本体を形成する。

また、前記容器本体の開口部に嵌合して密閉する中蓋を、熱可塑性合成樹脂を射出成形して前記容器本体の開口部に着脱できるように成形すると共に、該中蓋の天板部に容器本体内に収納される前記軟質容器の上端部を挿通せしめて保持するスリット部と軟質容器内の

10

内容物を注出可能にする開口部とが設けられた中蓋を成形する。
そして、このように成形された中蓋を、上記容器本体の開口部に着脱自在に嵌合せしめて、内部に収納した前記軟質容器を安全に保管すると同時に、内容物を注出可能に保持するようにした本願発明の外容器を形成する。

【 0 0 1 4 】

上記のように形成された本願発明の外容器の容器本体内に、軟質の合成樹脂からなる袋状やパウチ状をした容器にジュースその他の飲料液体やソースその他の調味料、あるいは、カレーその他の流動性食品等を収容して密封してなる軟質容器を自立させるようにして収納せしめて、前記軟質容器の開封可能な上端部を前記中蓋の天板部に設けたスリット部に挿通せしめて保持して、該中蓋を前記外容器の開口部に着脱可能に嵌合せしめて密閉した

20

【 0 0 1 5 】

本願発明の外容器を用いて上記のように構成された液体注出容器は、外蓋を外した後に、外容器に嵌着された中蓋の天板面より上部に突出している前記軟質容器の開封可能な上端部分を破断部に沿って切除して開封し、軟質容器に収容された内容物を注出できるような状態にしてから、外容器の本体胴部を片手で把持して外容器を傾けることにより、前記軟質容器の開口部から液状の内容物を注出せしめて、目的の用途に使用する。

【 0 0 1 6 】

30

【 実施例 】

以下に、本願の発明である各種の液状物を収容した軟質容器を、剛性を有する容器内に収納して安全に保管できて、且つ、注出可能な状態にして保持できる外容器と、そのような外容器を用いて構成される注出容器について、最適な一つの実施例に基づいて、図面を参照しつつ詳細に説明する。

本願発明の外容器 1 は、図 1 に示すように、液状物を収容した袋状の軟質容器 10 を収納する箱状の容器本体 2 と、該容器本体の開口端部に取外し自在に嵌合される中蓋 3 と、必要に応じて前記中蓋の上面を覆うように着脱自在に嵌着される計量容器を兼ねる外蓋 4 とから構成されている。

【 0 0 1 7 】

40

そして、上記のように構成された本願発明の外容器に収納するのに適した軟質容器 10 は、図 2 に示すように、軟質の熱可塑性合成樹脂を用いて成形された袋状やパウチ状の容器にジュース等飲料用液体やソースその他の調味料、あるいは、カレーその他の流動性のレトルト食品等を収容して密封した包装体からなるもので、該容器の腰は弱くて自立性がないものである。

また、上記したような軟質容器 10 には、通常は図 2 に示すように、その上端部の側壁部の左右両方または片方に開封するための切欠き部 11 が設けられると共に、上端部を水平方向に、あるいは、隅角部を斜め方向に切除可能にする破断部 12 が形成されており、容易に開封することができるようになっている。

【 0 0 1 8 】

50

そして、本願発明の外容器内に、上記のような軟質容器を収納して構成される液体注出容器は、以下のようにして形成することができる。

前記した軟質容器 10 を収納する本願発明の容器本体 2 は、合成樹脂を射出成形またはブロー成形することにより、図 1 に示すように、袋状の軟質容器を内部に簡単に収納できて、安全に保管できるように箱形をした中空の容器に成形されると共に、該容器の開口端部 2 a には別体の中蓋 3 を嵌合せしめて係止する係止部 6, 7 が形成される。

【0019】

そして、前記容器本体 2 に嵌合される中蓋 3 は、合成樹脂を射出成形して前記容器本体の開口端部 2 a の係止部 6 に着脱自在に嵌合する嵌合部を有する蓋体に成形すると共に、該蓋体の天板部 3 a に容器本体内に収納する前記軟質容器 10 の上端部 10 a を挿通して保持するスリット部 9 と、該軟質容器の内容物を注出できるようにした開口部 8 とを設けて形成される。

10

また、合成樹脂を射出成形して前記容器本体 2 の開口端部 2 a に簡単に着脱できるようにした計量容器を兼ねる外蓋 4 を成形する。

【0020】

上記のようにして形成された外容器の容器本体 2 の開口端部 2 a に、前記中蓋 3 を着脱可能に嵌着せしめた後に、該中蓋の上から計量容器を兼ねる前記外蓋 4 を着脱自在に被着して、内部に収納する軟質容器 10 を安全に保管可能にした外容器 1 を構成する。

そして、このように構成された外容器 1 に対して、前記容器本体 2 内に袋状またはパウチ状に形成した前記軟質容器 10 を自立させるようにして収納せしめて、該軟質容器の開封可能な上端部を前記中蓋 3 の天板部 3 a に設けたスリット部 9 に挿通すると共に、上端部が天板面から突出するようにして保持して、該中蓋 3 を前記容器本体 2 の開口部 2 a に着脱可能に嵌着せしめて密閉した後で、該中蓋 3 の上から計量容器を兼ねた外蓋 4 を着脱自在に被着して、内部に収納した軟質容器 10 を安全、且つ、注出可能に保管する液体注出容器が構成される。

20

【0021】

上記した外容器 1 の構成について更に詳細に説明すると、容器本体 2 は、図 1 に示すように、合成樹脂の射出成形により上端部が開口した筒状の胴壁部 5 と、該胴壁部の下端部に接続する底壁部 2 b とからなる箱形をした中空容器に成形されて、内部に前記袋状の軟質容器 10 を収納可能に形成されている。

30

そして、前記容器本体 2 の上端部の開口部 2 a の周縁部には、中蓋 3 が着脱可能に嵌合されて係止する嵌合係止部 6 と、外蓋 4 を着脱自在に被着せしめる係止部 7 とが段状に形成されて、前記中蓋 3 と外蓋 4 とが、それぞれ取り付け、および、取り外しが容易にできるようになっている。

【0022】

また、前記中蓋 3 には、図 1 に示すように、その中央部に袋状の軟質容器 10 の出し入れも可能で、また、該容器の内容物を注出可能にする開口部 8 が形成されると共に、前記開口部 8 の両端には軟質容器 10 の上端部を挿通せしめて、挟んで保持することができるスリット部 9 が形成されており、該スリット部は、図 3 に示すように、軟質容器 10 を自立せしめて保持することができるように形成されている。

40

更に、上記スリット部 9 は、図 1 に示すように、袋状の軟質容器 10 の一方の側端部を挟み込む直線状のスリット 9 A と、該軟質容器 10 の他方の側端部をきつく挟み込む屈曲状のスリット 9 B とを向かい合わせるように形成すると共に、前記直線状のスリット 9 A が開口部 8 に接する後端部は、図 1 に見るように曲面状をなして、内容物を注出し易いように形成されている。

【0023】

上記のように構成された外容器 1 は、前記容器本体 2 内に袋状の軟質容器 10 を自立状に収納せしめると共に、前記軟質容器の上端部を中蓋 3 の開口部 8 およびスリット部 9 から突出するように保持せしめて、前記中蓋 3 を容器本体の開口端部 2 a に嵌着せしめて、軟質容器の上端部 10 a の両側の側端部を直線状のスリット 9 A と屈曲状のスリット 9 B と

50

にそれぞれ密着するように挿入せしめて、内部の軟質容器 10 を自立させるようにして保持する。

【0024】

このようにして、本願発明の外容器 1 に収納された袋状の軟質容器 10 は、図 3 に於いては、軟質容器を二つ収納した場合が示されているが、前記中蓋 3 の天板 3a 面から突出した一方の軟質容器の上端部の隅角部を破断線に沿って斜めに切除することにより、前記軟質容器は開封されて注出可能な状態で保持されることになり、また、同じようにして、他方の軟質容器も反対側の隅角部を切除、開封して、注出可能な状態で保持することができる。(図 3 に於いては、軟質容器は二つとも隅角部が開封されているが、一方だけ開封して他方は無開封のままにしておいてもよい。)

10

【0025】

上記した本願発明の中蓋のスリット部に保持された袋状の軟質容器 10 は、図 3 に示されるように、破断部 12 に沿って斜めに切除された開口部 13 の位置とは反対側の上端部が、屈曲状のスリット 9B によって屈曲して保持されるので、スリット面により強く保持されていて、スリット部 9 から下方に抜け落ちるようなことがない。

そして、上記した実施例に於いては、中蓋に二つの袋状の軟質容器 10 を保持するスリット部が、一方の軟質容器 10 と他方の軟質容器 10 とは、軟質容器の隅角部の切除される開口部 13 が逆の位置になるように形成されている。

従って、軟質容器が収納された外容器の容器本体 2 の胴壁部 5 を手に持って外蓋 4 を外してから、図 4 に示すようにして、容器本体 2 内の二つの軟質容器 10 のうちの一方を選んで、該軟質容器 10 の隅角部が切除されて開口部 13 のある方に傾けると、二つの軟質容器 10 のうちの一方の開口部 13 から内容物が注出されることになる。

20

【0026】

また、本願の発明は、外容器に収納された袋状の軟質容器 10 を、中蓋 3 のスリット部 9 で保持して自立した状態にして保管できるようにしたので、軟質容器 10 内に内容物が残っている場合にも流出するようなことがない。

そこで、開封して使い残した内容物をそのままの状態では、図 3 に示すように、中蓋 3 の上から外蓋 4 を容器本体 2 に被着しておけば、軟質容器 10 の開口部 13 にゴミ等が付着するようなことがないので、衛生的に良好な状態で保管することができる。

30

【0027】

従って、上記のようにして使い掛けのままの状態では保管した外容器 1 から使い残しの内容物を再び注出して使おうとする際には、外蓋 4 を容器本体 2 から取り外した後で、容器本体 2 を手に持って傾けることにより、開封されている軟質容器 10 から簡単に内容物を注出することができる。

その際に、本願発明の外蓋 4 は目盛りが設けられた計量容器を兼ねているので、容器本体 2 から取り外した外蓋 4 に、袋状の軟質容器 10 からの内容物を注ぎ込んで、必要な量だけを計量することも可能である。

【0028】

上記した本願発明の実施例に於ける外容器 1 の容器本体 2 は、熱可塑性合成樹脂を射出成形して、上端部が四辺形状に開口した筒状に成形された胴壁部 5 とその下端部に底壁部 2b が接続された箱形をした中空容器に一体に成形されて、その内部に袋状の軟質容器 10 を自立状に収納可能に形成されてものであったが、本願発明は、このような容器本体に限ることなく、筒状の胴壁部 5 の底部を、開閉可能にした底壁部や着脱可能にした底壁部を設けた構造にして、本願発明の容器本体を形成することもできる。

40

また、軟質容器を保持するための中蓋 3 を別体に形成して容器本体 2 の開口端部に着脱可能に設けた構造にしたが、本願発明は、中蓋を容器本体の上端開口部に一体に設けた構造にすることも可能である。

【0029】

例えば、外容器を構成する容器本体を、筒状に形成された胴壁部の下端部に底壁部を設け

50

た箱形状に形成するのに、胴壁部の下端部の底壁部を開閉可能にする場合には、胴壁部の下端部にヒンジ部を介して底蓋を連結した構造に成形して、該容器本体に底壁部から内部に軟質容器を収納可能にした外容器を構成することも可能である。

その際に、図 5 に示すように、前記した開閉可能な底壁部は、熱可塑性合成樹脂を射出成形して、弾性ヒンジ部 14 a により胴壁部 5 に直接に連結された一体構造に成形された底蓋 14 であっても良いし、また、別体に成形した底蓋 14 をヒンジ等により開閉自在に胴壁部の下端部に連結した構造であっても良い。

また、外容器を構成する容器本体を、筒状に形成された胴壁部の下端部に底壁部を設けて箱形状に形成するのに、図 6 に示すように、胴壁部 5 の下端部に別体に成形した底蓋 15 を着脱可能に嵌合せしめて形成したものであっても良い。

10

【0030】

上記したように、筒状に形成された胴壁部の下端部に、開閉可能または着脱可能にした底板を嵌合せしめるようにして、本願発明の外容器の容器本体を形成する場合には、図 5 や図 6 に見るように、筒状をした胴壁の下端開口部が上端開口部よりもやや大きい台形状に容器本体を形成すると、外容器は安定性が増すので転倒するようなことが殆どなくなり、また、胴壁部の下端開口部および底壁部に鐳状の周縁部 5 a , 14 a , 15 a を設けると一層安定性に富んだものとなり、底板の嵌合も一層容易になって、安定したものとなる。

【0031】

そして、図 5 に示すように、底壁部を開閉可能な底蓋 14 を設けた構造にした容器本体 2 からなる外容器 1 に於いては、中蓋 3 を外すことなしに、底蓋 14 を開いて軟質容器 10 を内部に収納して、上端部 10 a をスリット部 9 に嵌合、保持せしめてから底蓋 14 を閉じればよいので、簡単に軟質容器を収納、保持することができて、また、中蓋 3 や底蓋 14 を紛失したりする恐れもない。

20

また、図 6 に示すように、底壁部を着脱可能な底蓋 15 を設けた構造にした容器本体 2 からなる外容器 1 に於いては、胴壁部 5 と底壁部 2 b が一体に成形されたものに比べて、成形金型を簡単に製作することができて、また、成形が容易であるから製造コストを低減することができる。

【0032】

尚、上記した実施例に於いては、図 1 に示すように、中蓋 3 のスリット部 9 は、袋状軟質容器 10 の上端部の両側端部を挟んで保持するように平行状の二つのスリットが設けられて、二つのスリットは、互いに直線状のスリット 9 A と屈曲状のスリット 9 B とが逆の位置となるように設けられていて、同時に二つの軟質容器を保持できるように形成されているが、本願発明は、このようなものに限定されるものではなくて、前記スリットを一つまたは三つ以上設けて軟質容器を保持するようにしてもよい。

30

【0033】

【発明の効果】

上記に説明したように、本願発明の外容器は、軟質容器を容器本体の内部に収納して、軟質容器の上端部分を容器本体の開口端部に嵌着した中蓋の天板面に設けた嵌合スリット部で支持できるようにしたので、内部に内容物が収容された軟質容器を自立状態にして保管することができて、軟質容器が倒れて内容物が流出するようなことがないので、使い掛けのものもそのままの状態でも保管することができて、また、使用時に手を汚したりするようなこともない。

40

そして、本願発明の外容器は、従来のものに比べて構造が簡単であるから、安価に製造することができて、また、その見た目も良くなるように成形することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本願の発明である袋状の軟質容器を収納して保管する外容器を示した分解斜視図である。

【図 2】図 1 に示す外容器に収納する袋状の軟質容器を示す斜視図である。

【図 3】図 1 に示す外容器に袋状の軟質容器を収納して保管した状態を示す斜視図である。

50

【図 4】図 3 に示す軟質容器を収納して外容器から内容物を注出する状態を示す斜視図である。

【図 5】本願発明の外容器の別の実施例を示した分解斜視図である。

【図 6】本願発明の外容器の他の実施例を示した分解斜視図である。

【図 7】本願発明の先行例を示す図である。

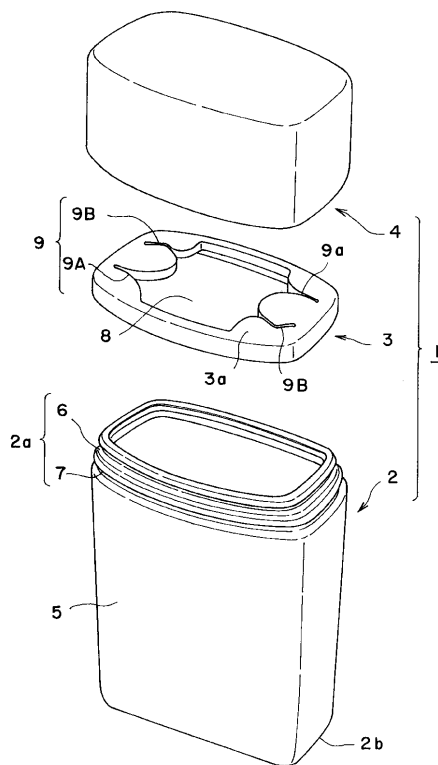
【符号の説明】

- 1 外容器
- 2 容器本体
- 2 a 開口部
- 3 中蓋
- 4 外蓋
- 5 胴壁壁
- 6 係止部
- 8 開口部
- 9 スリット部
- 9 A 直線状スリット
- 9 B 屈曲状スリット
- 10 軟質容器
- 10 a 上端部
- 14 底蓋
- 15 底蓋

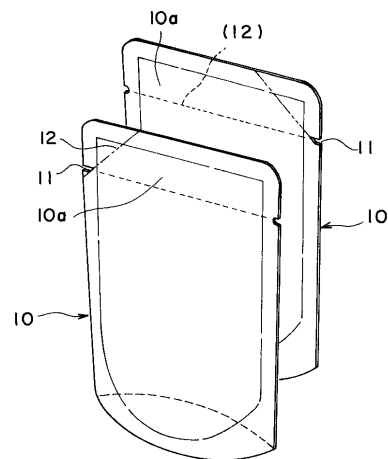
10

20

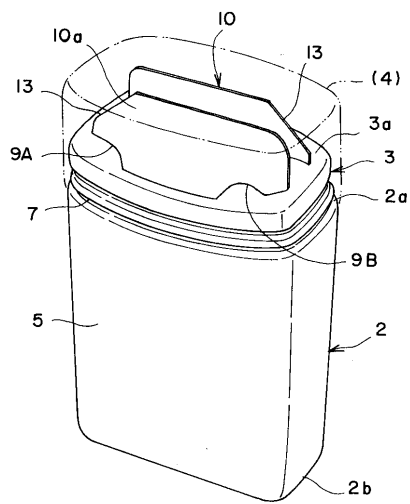
【図 1】



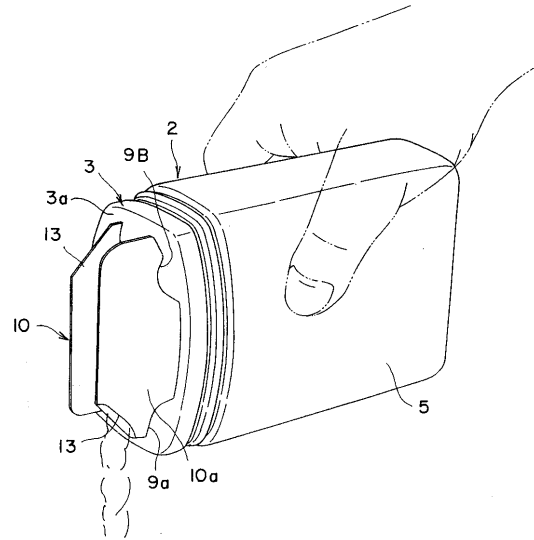
【図 2】



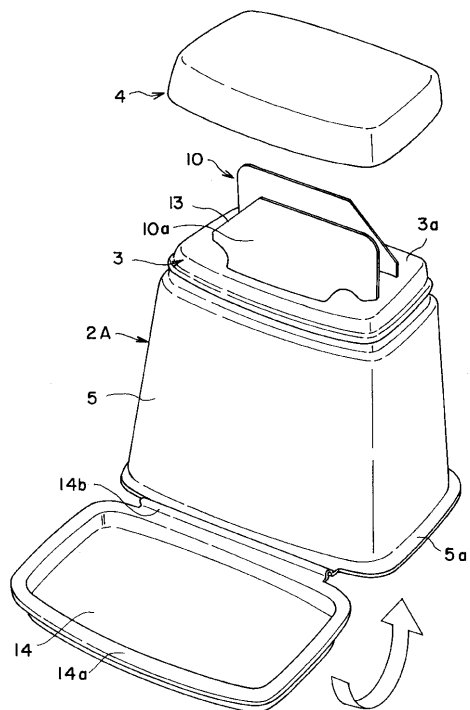
【図 3】



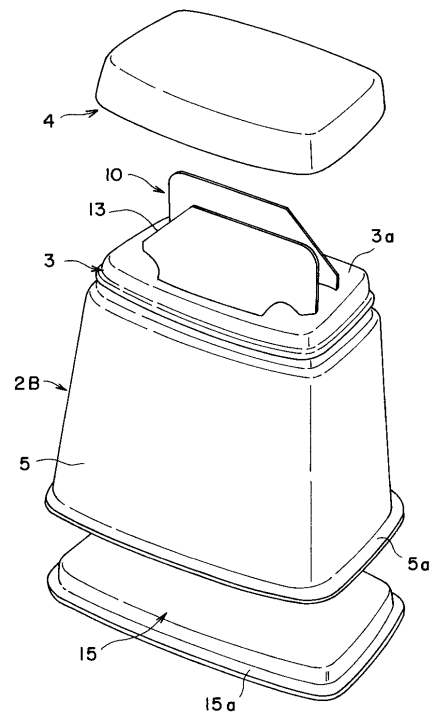
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

- (72)発明者 野瀬 和明
東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会社 吉野工業所内
- (72)発明者 水嶋 博
東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会社 吉野工業所内

合議体

審判長 栗林 敏彦
審判官 遠藤 秀明
審判官 佐野 健治

- (56)参考文献 特開平 0 8 - 1 9 2 8 7 2 (J P , A)
特開平 0 9 - 0 8 6 5 7 9 (J P , A)
特開平 1 1 - 2 9 2 1 7 1 (J P , A)
実開昭 5 1 - 1 0 6 6 1 6 (J P , U)
実開昭 6 3 - 0 3 4 0 7 0 (J P , U)
実開平 0 5 - 0 7 2 7 7 2 (J P , U)

- (58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)
B65D67/00-79/02,
B65D81/18-81/30,81/38